

前回の捕獲が終わったと思いきや、また新たな猫親子の情報が入った。私は普通の主婦、保護活動家ではないのに……。前回の仲間と見に行くと、まだ目も開かぬ乳呑み児が2匹、寄り添うように眠っている。



保護するには幼すぎる。このまま母猫に育てさせ、時期がきたら保護するつもりだったが、親子は姿を消してしまった。

あの子達には過酷なノラ生活が待っている、そう思うと切ない。

度重なる猫親子の出現に私たちは意を決し、繁殖元の猫達も TNR することにした。連絡手段としてグループラインを開始。グループ名は、3人の年代からチーム356。

さっそく、猫屋敷と化しているお宅を訪ねて不妊手術を提案してみたが、あっさり断られる。さらに、猫を嫌う近所の人から「餌付けせずに捕獲しろ、エサなどやるな！」と何度も文句を言われにつちもさつちもいかず、市役所に泣きついた。

相談に通う私達に職員も耳を傾け、現場訪問、ある時は動物愛護センター職員同伴で視察が行われた。

捕獲中に通報されぬよう、最寄りの交番に挨拶に行ったところ、猫の糞尿などの苦情対応に苦労されており歓迎された。

これより、連日「捕獲器を設置→捕獲→動物病院を往復」を繰り返す。初めは順調だったが、捕獲器がワナであると学習した猫達が捕まらず長期戦に。捕獲するため猫を空腹状態にしたいのだが、猫屋敷の人が給餌をやめないのにつかまらない。

7か月が過ぎた頃、最初に見失った猫親子も含め、ほぼ全頭の手術が済んだ。



自分でも驚くことに約30匹を TNR、子猫は10匹保護(貰い手が見つからず、譲渡活動グループに託す)した。

チームのメンバーそれぞれが得意分野(猫の扱いに慣れている者、運転が好きで動物病院への搬送を担当する者、捕獲器を設置管理する者など)を活かし、適材適所で動いたことも成功の要因。

<活動を振り返って>

地域猫活動で欠かせないのは近隣への周知。

誤って飼い猫を捕獲してトラブルにならぬよう、近所へ手術を知らせるチラシを作って配るのだが、作れる人ばかりではない。

今回は環境課が作成してくれたのでとても助かったし、連絡先が市役所と記載され信用度もバッチリ。

市民が捕獲器を借りる際にこのチラシがセットになっていれば、撒きやすい地域にも周知され、活動の認知度が上がるはず。

今回つくづく実感したのはまさに、この地域猫活動の認知度の低さ。

住民がこれを知らない地域で活動するのは、やりにくいし辛かった。

猫の繁殖を抑えることは人と猫の双方にとってメリットがあるのに、なぜ白い目で見られなくてはならないのか。

不妊手術への理解が進めば多くの人が捕獲にチャレンジするだろう、そうなれば市内全域の猫に手術が行き届く日も夢ではない、市議にも相談した。

<おまけ>

車のスピード違反が多い場所で、活動期間中だけでも 2 匹の猫が命を落とした。

苦勞して捕獲し手術を済ませたばかりの猫、ご飯を上げた数分後に事故に遭った猫も…

人間もヒヤッとするような危険カ所なので、チームメンバーが市役所に相談した結果、道路脇に白線が引かれ、地域猫活動が町の交通安全にもなった。

